



COOP
生活協同組合 共立社

生活協同組合共立社

復旧支援の取り組み

震災直後、隣接する岩手県・宮城県・福島県から山形県内にも大勢の方が避難し、庄内浜文化伝道師による炊き出し（米沢市）のほか、産直産地激励「炊き出し」支援活動として、宮城県亘理町の避難所へ組合員・職員・りんご生産者とともに炊き出しの支援活動を行いました。チャリティバザーで集めた物資を、直接、避難所（気仙沼 階上中学校）にトラックで届け、青空市を開き自由に選んでもらいました。



2011 年 6 月 9 日 亘理町・産直産地炊き出し支援

復興支援の取り組み

「東日本大震災復興支援募金」や生協まつりなどでの「復興支援バザー」に取り組みました。

「みやぎ生協仙南ボランティアセンター」への支援や交流、「福島の子ども保養プロジェクト」山形保養地の支援活動、田老町漁協への軍手支援、いわて生協宮古復興応援生協まつりへの参加、岩手かけあしの会への支援活動に取り組みました。また、被災地の現状を知る活動として被災地視察に継続して取り組みました。



2017 年 11 月 27 日 みやぎ生協ふれあい喫茶

メッセージ

東日本大震災から 10 年という節目にあたり、月日の経つ早さを実感しています。当時、どのような支援のあり方が求めているのか悶々としていた私の背中を押したのは「現地を見て来てほしい」という被災地の方の言葉でした。復興に向けて取り組まれる現地の皆さんのつながりの中で多くの事を学びました。これからもこのつながりを大切に、そしてさらに広げていきたいと思っています。



福島被災地視察（山形生協）

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、当生協の活動エリアである山形県にも全国の生協から多大なご支援をいただきありがとうございました。

太平洋沿岸地域とはくらべものにはなりませんが、山形県内でも震災直後から停電になり、物流の混乱による品不足、ガソリン・灯油等の燃料不足に見舞われました。また、山形県は福島県を中心にピーク時には14,000人弱の避難者を受け入れ、現在（2020年10月1日）も562世帯1,591人の方が避難生活を送られています。

生協共立社では組合員の安否確認、事業継続の対応を行いながら、被災地生協・産直産地の支援・山形県への避難者支援の活動を始めました。

震災復旧の支援活動

コープ東北サンネット事業連合の本部がある仙台市も甚大な被害だったことから、共同購入事業は休止せざるを得ず、配達担当は支援物資を持って組合員訪問と安否確認を行いました。くらしのセンター（店舗）では一部損壊、停電、商品不足があったものの、供給事業を継続しました。

1. 募金活動

- ・震災直後からくらしのセンターでは街頭募金を開始しました。
- ・各地域生協では復興支援チャリティバザーや生協まつりでの募金活動に取り組みました。
- ・「手仕事マーケット」（鶴岡）の収益金を東日本大震災支援募金にいただきました。

2. 被災地生協への支援活動

- ・コープふくしまへの人員支援（3月22日～4月15日）
第7陣まで28人を、避難所への支援物資お届けや店舗の復旧作業に派遣しました。
- ・みやぎ生協の仲間づくり支援活動に、共同購入部から7人を派遣しました。
- ・みやぎ生協へ3月16日～4月3日までJAあまのめのおにぎり3,000個をお届けしました。

3. 産直産地への支援活動

- ・産直産地激励「炊き出し」支援

みやぎ生協の代わりに産直生産者の住む地域を支援しようとの呼びかけに、共立社ではみやぎ生協との産直も長い大谷果樹組合（りんご）とともに支援活動に取り組みました。

6月9日 亘理町・亘理小学校避難所

大谷果樹組合10人、組合員10人、職員5人が参加
150人分の山菜汁を提供しました。

6月10日 石巻市・山下中学校避難所

組合員8人、職員13人が参加
焼きそば、餃子スープなどを提供しました。

- ・田老町漁協への支援活動

共立社でも真崎わかめは人気商品の一つです。
10月の置賜3地域合同生協まつりに、いわて生協産直事業推進事務局の末藤雅也さんに参加していただき「田老町漁協の現状」を訴えていただきました。12月に田老町漁協を訪問し募金と軍手をお渡ししました。軍手支援はその後にも継続して取り組みました。



2011年10月23日 生協まつりに末藤さん参加

4. 被災地への支援活動

- ・各地域で震災チャリティバザーを開催し、収益は震災支援募金として被災地支援に活用されました。
- ・石巻市赤十字病院での炊き出し支援

3月27日、甚大な被害を負った石巻市で庄内浜文化伝道師が鍋料理の炊き出し支援を行い、入院患者、医療関係者に振舞われました。みなさん忙しそうに立ったまま汁をすい、ほっとする笑顔が印象的でした。



- ・気仙沼へ衣料品等をお届け（6月20日、10月30日）

西置賜地域では、気仙沼に姉がいる組合員から「衣料品がない」との情報を聞きました。ちょうど震災支援バザーをやったばかりだったので、その商品をトラック1台分積んで気仙沼の避難所に直接お届けしました。約80人が集まり品物を選んでいただきました。

「こういう支援は初めてだ。自分でほしいものを選べるのがいい。」「ちょうど支援物資が途絶えていたところに来てくれた。ありがたい」と大変喜ばれました。

秋には「冬物の衣料がない」とのことで置賜3地域の組合員に再度お願いし、トラック2台分の衣料品を提供していただきました。2ヶ所の避難所に直接お届けしました。（350人来場）



2011年10月30日 気仙沼への衣料品支援

5. 山形県への避難者支援活動

- ・米沢市の避難所（米沢市体育館）、中山町の避難所（勤労者文化センター）で、山形県に避難している方々への炊き出し支援活動を行いました。震災直後はいろんな団体、企業が炊き出しに参加していましたが4月になるとだんだんと減ってきていたのが現状です。

＊4月4日、18日 中山町勤労者文化センター

山形生協の中山こ〜ぷ委員会で昼食の炊き出し支援を行いました。

（4日はお好み焼き、18日は五目おこわを提供）

＊4月24日 米沢市体育館避難所

コープよねざわ地域理事会と庄内浜文化伝道師の合計20人が参加し、海鮮汁、牛肉ゴボウなど120食を提供しました。

このころは避難所を出て新しい生活を始める人も多くなり、日々避難所の人数が変わり食材の調整に苦労した覚えがあります。



＊12年2月19日 米沢市の避難者との寒ダラ汁を囲んでの交流会

震災から1年近くなりますが、米沢市にはまだまだ多くの方が避難生活をされていました。米沢市に開設されている避難者支援センター「おいで」とコープよねぎわの共催で“福島県民同士の交流の場を作ろう”と「避難者との寒ダラ汁を囲んでの交流会」を企画しました。NPOりとする福島や福島の子ども保養プロジェクトの方々も合流し、150人の参加者に寒ダラ汁、タラフライ、漬物などを提供しました。

2012年02月20日 山形新聞より



復興支援の取り組み

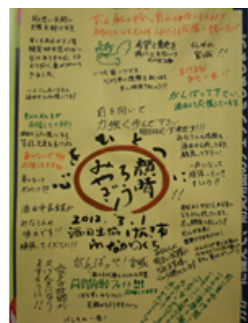
1. 募金活動

- ・2012年以降も日本生協連を窓口とした東日本大震災復興支援募金に取り組みました。
- ・共立社各地域の生協まつり、くらしのセンター（店舗）の文化祭、周年祭、委員会活動などで震災復興支援バザーや募金活動が取り組まれました。日本生協連の募金に集約されるものと、震災でつながりのできたところへ直接支援する募金があり、被災地視察に行ったときやふれあい喫茶に支援に行ったときに直接募金をお渡しすることもありました。

＊酒田生協では、2012年3月1日に「第2回被災地支援げんき市」を開催し50,671円の収益がありました。当日は、寄せ書きの呼びかけも行いました。

3月12日にみやぎ生協ボランティアセンターとの交流会を行い、大村美智子理事から被災地の現状とその後の活動や取り組みについてお話をお聞きしました。3月1日に行われた「げんき市」の収益金を、復興への願いをこめた寄せ書きや、酒田のお土産と一緒に直接手渡しました。

その後もこびあコープ酒田春祭り（山形大好きフェア）や生協まつりで募金活動を続けました。



【第2回被災地支援げんき市での寄せ書き】

- ＊鶴岡生協環境委員会では、独自に募金活動「虹のプロジェクト」を立ち上げ、その募金で、手作り用の布などを購入し、みやぎ生協に贈りました。
- ＊南陽生協では、2014年から毎年3月に東日本大震災復興支援バザーを開催しています。併せて岩手かけあしの会の皆さんにも参加していただき特別販売会を開催しています。バザー終了後には地域役員の手作り昼食を取りながら菅原社長から現地の復興状況をお聞きすることが恒例になっています。バザーの収益金は、2017年よりコープふくしまへ福島視察を兼ねて直接寄贈しています。

※2011年5月には震災支援チャリティバザーを開催し、約11万円の収益を募金することができました。

- ＊北村山生協では「東日本大震災復興支援バザー」を開催して、コープふくしま、みやぎ生協、いわて生協へ東日本大震災復興支援募金を贈呈しました。また、被災地を訪問して現地の現状を視察して復興支援を行いました。



南陽生協の復興支援バザー



北村山生協の復興支援バザー

2、被災地生協への支援活動

- ・みやぎ生協ボランティアセンター ふれあい喫茶支援（仙南、石巻）

県南ボランティアセンターの亘理町、名取市でのふれあい喫茶に参加し、避難者の皆さんと交流することができました。

- ＊コープよねざわでは、2013 年に仙南ボランティアセンターに和裁小物づくり用の着物（着物 153 枚、帯 8 枚、反物 18 反）を寄付しました。
2014 年にその着物で作ったそば殻枕等を直接組合員にお渡しをしたいと連絡があり、地域事務所で交流会を行いました。

コープよねざわ（いただいた着物地の小物を持って仮設住宅の皆さんと）



- ＊2014 年 6 月には仙南ボランティアセンターの企画で亘理町、山元町の仮設住宅入居者の方が天童市を訪れ、さくらんぼ狩りでリフレッシュされました。天童温泉ゆびあで昼食とお風呂も楽しんでいただきました。（天童、寒河江生協の組合員が対応）

天童産直センターの協力でさくらんぼ狩り



- ＊2013 年 9 月 19 日に新庄生協でみやぎ生協石巻蛇田店に訪問、ボランティアセンターとの交流を行いました。今後の支援のあり方について検討する場を作ることが出来ました。

2014 年 1 月 23 日には、石巻ボランティアセンターを地域役員が訪問し、生協まつりバザー収益金 30,000 円と新庄の銘菓の贈呈をしました。（2015 年以降も継続して訪問しています）



石巻ボランティアセンター

- ＊寒河江生協では、みやぎ生協仙南ボランティアセンターの亘理町・名取市のふれあい喫茶を訪問し、山形名物の芋煮を振舞い、コースターと折り鶴を折りながらの交流を行いました。



2019 年 2 月、亘理町西木倉訪問

- ・福島県の保養プロジェクト・山形県保養地の支援活動

＊福島県生協連が実施するこの企画で山形県（天童市）も保養地となり、地元生協として組合員のボランティアスタッフを募り支援活動を行ってきました。開始当初は参加したお母さんたちのお話を聞く傾聴活動がメインでしたが、途中からは見守り活動が主体となっています。



＊鶴岡生協環境委員会では、生協まつり等で募金活動を行い、集まったお金で芋煮材料やお土産を購入し、みやぎ生協ボランティアセンターと話し合いを行いながら、毎年秋に「ふれあい喫茶」を訪問し庄内風芋煮を作って振る舞い、紙芝居やクイズなどの出し物で現地の方々と交流を行いました。



＊2013年度酒田地域総代会で、福島県生活協同組合連合会佐藤一夫専務理事より「福島の現状と取り組みについて」講演をしていただきました。総代会では引き続き「福島の子ども保養プロジェクト」への募金の呼びかけをしました。

- ・被災地視察（震災を忘れない支援活動）

2014年から鶴岡生協と酒田生協合同で「福島の被災状況を知る活動（福島訪問）」に取り組みました。翌年以降も継続した取り組みになっています。（2014年度 47人、2015年度 43人、2016年度 25人、2017年度 28人、2018年度 35人、2019年度 33人が参加）

・2017年6月30日に新庄生協で女川町視察交流会を行いました。組合員37人、職員2人、合わせ39人が参加しました。「原発の危険から住民の生命と財産を守る会」の事務局長（女川町議会議員）の高野博さんに女川町を案内して頂き、震災当時の女川町と女川原発の状況についてお話を伺い、視察して来ました。



- ・いわて生協宮古復興応援生協まつりへ参加

2011年12月に田老町漁協を訪問した帰りにいわて生協マリンコープDORAに立ち寄り、菅原店長（当時）から震災時のお話をお聞きしたのがきっかけで、2012年から宮古復興応援生協まつりに参加しました。山形名物の芋煮、玉こんにゃくなどを販売し、収益をいわて生協に贈呈しました。移動販売車にこちゃん号の購入資金や震災復興支援活動の資金として活用していただきました。



3. 学習会や調査など

- ・ コープふくしま甲状腺検査の学習支援

＊2015 年にコープふくしまより放射能線量調査（ガラスバッチ）の依頼があり、共立社で 20 人の組合員が調査に参加しました。

＊2019 年 3 月 3 日に、コープふくしまがすすめている甲状腺検査について理解を深める学習会を行いました。（42 人参加）

山形県にはまだ多くの避難者が生活しているため、福島で生きていく為に自分の物差しを持つことを目的に、甲状腺検査をめぐる心配や不安についての学習を深め、知る事・気づく事の大切さ、向き合う力を身につけることの大切さを共有する場としました。

- ・ 放射性物質摂取量調査（食事調査）

＊2015 年 7 月に、コープふくしまで行う放射性物質摂取量調査（食事調査）を山形市に避難している 10 家族に依頼し、調査を行いました。

調査対象者は「山形避難者母の会」のメンバーを中心に集めていただきました。

- ・ 原発と被災地の現状を知る学習会

＊2015 年 12 月 1 日に鶴岡・酒田生協合同で、東日本大震災・原発事故被災地の現状を知るとりくみとして、コープふくしま野中専務に来て頂き「福島第一原発事故の現状とコープふくしまの取り組みについて」の報告会を行いました。（33 人が参加）

- ・ 山形大学農学部生徒と菊地先生、地域の住民が中心となり「鶴岡 Candle・Night の会」を立ち上げ、震災の翌年から、被災地へ向けたメッセージを記入いただいた紙コップにロウソクを入れ、3 月 11 日にロウソクを灯して被災者を追悼する「Candle・Night」を毎年開催しています。鶴岡生協でもその活動に賛同し、環境委員会を中心にキャンドルづくりワークショップからお手伝いをしています。



4. 産直産地への支援活動

- ・ 田老町漁協への軍手支援

いわて生協で生産者への軍手支援をしているとの情報があり、共立社でも生協まつりやくらしのセンター水産コーナーで募集を行いました。11 月のいわて生協宮古復興応援生協まつり参加の際に田老町漁協を訪問し、施設や漁港の復旧状況などを視察させていただき、軍手や募金を贈呈しました。

＊軍手贈呈は 2020 年度まで継続しています。

